令和５年度　府中市立南町小学校　学校経営計画

校長　島田　文江

１　教育目標及びめざす学校像、教師像

（１）教育目標

① たくましい子（重点目標）

② 思いやりのある子

③ 努力する子

（２）めざす学校像

① 児童の確かな学力・体力を育てる学校

② 児童の豊かな心を育てる学校

③ 児童がチャレンジできる環境の整った学校

（３）めざす教師像

① 心身ともに健康である教師

② 児童に愛情を注ぎ、児童の成長のために努力する、自己の職務に誇りをもつ教師

③ 自己の将来に希望をもち、教職員同士切磋琢磨しながら真摯に学ぶ教師

２　教育目標を実現するための中長期的な目標と方策（５年目）

２２世紀を見ることになる児童の育成にあたり令和の学びを推進する。そのために全ての児童が人格の完成に向け、ふるさと府中に誇りをもち、知性や感性を磨き、豊かな人間姓を備え、心身ともに健康に成長していくことを目指す。

【学校の教育目標と、達成を目指す能力と資質】
◎たくましい子：運動習慣と生活習慣、学習習慣の見直しを図る。（笑顔:実践力）
〇思いやりのある子：縦割り班活動や行事を通し人同士の関りを学ぶ。（あいさつ：人間関係形成力）
〇努力する子：“見通し,ふりかえり”を行い、個や共通の願いを叶える。（チャレンジ：問題解決力）

（１）たくましい子「笑顔」・・・学校を、児童が登校を楽しみにする場になるようにする

① 運動に親しみ、自ら健康を促進する。

② 読書量を増やし、語彙を豊かにする。

（２）思いやりのある子「思いやり」・・・互いに認め合える関係性を作る。

① コミュニケーションを図る方法を身に付ける。

② 異年齢集団、異校種間の交流を通して仲間づくりをする。

（３）努力する子「チャレンジ精神」・・・日常的にチャレンジできる場を設定する。

① 個別にゴールを見通し、チャレンジし、課題を達成する。

② 学級や学校のゴールを見通し、チャレンジし、課題を達成する。

３　今年度の教育活動の取組

（１）たくましい子「笑顔」の実現のために

今年度も、学習の基盤といわれる言語能力や情報活用能力の育成に重点を置く。

学力向上委員会及び図書委員会の読書倍増計画を継続する。多読することで、課題解決のために資料から必要な事項を読み取ったり、複数の資料から判断し自分の考えを書いたりできるようにする。

昨年度は、校内研究を学校経営の柱として“すすんで運動できる児童の育成”を目指した。今年度は体育健康教育推進校として授業改善と運動の日常化を図る。運動やスポーツとの多様の関わり方を通して、健康で活力に満ちた生活をデザインすることができるようにする。

① 基礎的・基本的な知識と技能を習得するための取組

・百科事典の一斉指導を通し、資料から必要な情報を選び書いたり話したりできるようにする。
・チャレンジ検定（6/23 計算、11/2 漢字、2/16 英単語）を実施する。
・第２学年から算数少人数指導を始めて基礎的な知識と技能を積み上げる。
・外国語や生活・文化について学んだことを具体的な外国の学校との交流に活かす。
・家庭学習でクロムブックを積極的に活用できるようにする。

② 思考力・判断力・表現力を育成する取組

・発達段階に応じてプログラミング学習に取り組み、論理的思考と表現の工夫を行う。
・各種行事では、全教職員の連携の下、実行委員を募り子供たちの主体的な活動を支援する。
・“水”をテーマに、地域で得た知見を様々な手法で表現し、Web 博物館で広く共有する。
・対面で、直接話を聞くことを通して話の内容を聞き取る力を育てる。
・Ｗｅｂや本を調べて学んだことを生活の場で生かす経験を多く取り入れる。
・自分の言動を客観的に見る力と、自らの課題を解決する方法を選んで使う力の育成を図る。

③ ＳＤＧｓの対象となる様々な目標への取組

・既存の学習を SDGｓの学習にあてはめて、再確認する。
・総合的な学習（ひびきあい）や特別活動の身近な取組から持続可能な社会の実現を目指す。
・第６学年児童が、地域のラジオ番組で、マイクロプラスチックの環境汚染について発表する。
・第６学年児童が、発展的な学習の日（10/28）に登校し、地域の避難訓練に参加する。

④ 学力向上と心身の健康の増進を図る取組

・体育科の研究授業を、低学年, 中学年, 高学年, 特別支援学級が実施し、児童の健康を促進する。
・はけ上までの避難訓練や遠足や宿泊学習では、歩くことを推奨し、体力の向上を図る。。
・“南チャレエクササイズ”で運動の習慣化を図る。“南スポーツ”で今月の遊びを実施する。
・６月から９月まで水泳指導と、ロープチャレンジ等、多様な関りを通して健康に生活する。
・体力テストの結果を分析して体力づくりの環境を作り、日常的な遊びや体育の指導に生かす。

⑤ 望ましい生活習慣の確立を図る取組

・児童のアレルギー反応についての確実な情報提供を保護者に依頼し、安全な給食を実施する。
・年３回の「アレルギー対応訓練」の実施および、リーフレットの内容確認を行う。
・養護教諭や専門的な外部人材から指導を受け、健康的な生活スタイルの確立を図る。
・第３学年が学ぶ地域の野菜づくり、全校児童で学ぶ稲作を通して食育を学ぶ。

（２） 思いやりのある子「明るいあいさつ」の実現のために

本校の特色の一つに特別活動の充実がある。昨年度、コロナ禍の影響の残る中に実施した年間 16 回を数える縦割り班活動は、高学年のリーダーシップと低学年のフォロアーシップを醸成する上で欠かせないものであった。6 年生にあこがれる低学年が、自分たちの学年や学級でも自立・自律を目指すことができるように、リーダーシップとフォロアーシップを見たり体験したりすることで学ばせたいと考える。児童に分かりやすいように「いちばんやさしい学校づくり」を目指す。

① 規範意識の定着

・南町小学校のきまりである「心響かせ学び合う南っ子」を学校と家庭の両方で徹底を図る。
・三中学校区の３つの小・中学校で、共通の授業規律「みそあじじ」「語先後礼」の徹底に努める。
・言葉遣いと持ち物の整理整頓については、今後も重点的に地域や家庭と連携する。
・ポストコロナで生活時程と内容の見直しを図る。登校時間と昇降口を変更する。

② 不登校児童、遅刻の多い児童への指導の強化

・保護者との面談を週単位、月単位で定期的に実施し、児童や保護者の立場で解決に努める。
・担任は管理職と連携し、学校と家庭の連携支援員による電話相談・家庭訪問・面談を実施する。
・特別支援コーディネーターは、管理職・ＳＣ・ひばり教員と共に「校内委員会」で対策をとる。

③ いじめの未然防止、早期発見、早期解決

・保護者との面談を週単位、月単位で定期的に実施し、児童や保護者の立場で解決に努める。
・保護者と日常から信頼関係を築き、保護者の理解と協力を得ていじめの解決を図る。
・全教職員の協力の下、日常的な児童観察、児童理解に努め、軽微ないじめも見逃さないようにする。
・毎週月曜日の生活指導夕会で、全教職員によって情報を共有し、見守りや指導を行う。
・年間３回の「フレンドリーアンケート」を実施し、未然防止・早期発見・早期対応に努める。
・学校サポートチームや地域住民に、見守りや声かけ等の支援を依頼する。

④ 児童の思いやりや感動する心を育む。

・児童の言動を細かく観察し、思いやりのある言動を認め、肯定的な言葉で児童の行動を強化する。
・児童自身に言動を振り返り、改善点を考えさせる指導を実施する。
・授業や行事において多様な考えを引き出し、認め合い、一人一人の違いを受け入れる指導を実施する。

⑤ 道徳科で他者と伝え合い、自己の生き方について考えを深める。

・“相手の立場を考えて、思いやりをもって行動する子供の育成”を道徳教育の重点項目とする。
・対話や議論などの指導方法を工夫し、「考える道徳」「議論する道徳」への質的な転換を図る。
・9/30 に道徳授業地区公開講座を実施し落語の人情噺を通して地域や親子で生命尊重を学ぶ。

⑥ 特別支援教育の充実を図る。

・特別支援教室「ひばり」を、朝会や学校だよりで周知し、児童や保護者の理解を深める。
・特別支援教室や特別支援学級「仲よし」への転学は、保護者や児童に十分な説明を行ってからにする。
・障害のある児童への「特別な支援」がすべての児童への支援につながることを認識する。
・障害のある児童を受け入れ、協力し助け合い、違いを認める学級経営を推進するように努める。
・保護者との面談を週単位、月単位で定期的に実施し、よりよい教育活動を推進する。
・サポートルームの活用を図る。

（３）努力する子（「チャレンジ精神」）の実現のために

“できた、分かった、伸びた”ことの見える化をより一層図る。そのために各分掌が分掌同士、横のつながりをもち、その都度、必要なチームとなって目標の達成に努める。教員も児童の両者とも、自己調整能力と個別最適化の手法を、自立と自律、個別最適な学びと協働の学びとして目指す。

本校は、今年度から２年間にわたって、東京都の体育健康教育推進校の指定を受けている。そのため児童の体力向上と、教員の指導力の向上を目指して活動することの一つ一つがすべてチャレンジになる。入学時に幼児教育との架け橋をつなぎ、遊びを学びとし、学んだことを在学中及び卒業時に専門的なスポーツにつなげるとともに、生涯にわたって健康に生きる力を身に付けさせる。

① チャレンジのための環境整備

〇タブレットの日常化

・タブレットを使った方が理解の深まる児童には、常時、使用を認める。
・授業中はタブレットを机の傍らに置きルールとマナーを守りながらいつでも使う。
・ルールとマナーが守られない場合には、その都度、ルールの再確認を行う。
・各学期に一度ずつ発達段階毎にセーフティ教室を実施し、保護者と共に情報モラルを学ぶ場とする。
・組織的にＩＣＴの日常化を図り、教員がＩＣＴをＯＪＴ形式で学び合った。
・児童がスキルとモラルを十分に学んだ上で、ＷＥＢ博物館に児童が作成したコンテンツを展示する。

〇読書活動の推進

・始業前の朝の活動を「朝活１０」と名付け、担任も児童と共に黙って読書をすることを推奨する。
・デジタル読み物と百科事典で読書と調べ学習を推進する。
・学期に１回ずつ読書旬間を設け、読書活動を推進する。
・定期的に行われる読書ボランティアや図書委員会によるおすすめ本の紹介の周知を徹底する。

② 学年・学級経営の充実

・発達段階に応じた児童の自主性や協調性を育成し、家庭と連携した学年・学級経営を実施する。
・学年主任のリーダーシップの下、家庭学習の内容、指導状況を学年で共通理解し指導する。
・毎月、30 分間の学年主任会で学年間の情報交換をする。
・学力・体力・ＩＣＴのＯＪＴ研修を通し授業改善に努める。
・ロープチャレンジや漢字検定等、学級や学年で協同・協働してチャレンジすることを推奨する。
・個別最適な学習を実践するために、個別の指導計画を推奨する。

③ 地域・保護者との連携

・南町小学校ＷＥＢ博物館では、今年度も学びを広く発信する。
・地域の防災担当や市の防災課と共に行う 5/1 の避難訓練を基に、第６学年の防災学習につなげる。
・5/1、２年, ４年, ６年の児童がはけ上まで避難訓練し、残った学年も座学で防災について学ぶ。
・おやじの会に、学校の顔である緑の島の環境整備を定期的にお願いする。

④ 教員の働き方改革

・管理職がイクボス宣言をする。子育て・介護中の教員も能力を発揮した働き方ができるようにする。
・漢字検定合格という目標を定め、地域ボランティア「漢字応援団」に、指導の支援を要請する。
・夕方６時以降、翌朝７時半までは学校は留守電とする。欠席連絡はスマート連絡帳で受ける。
・ブラスバンドとタグラグビーの部活化を図り、練習に地域のボランティアの応援を受ける。